

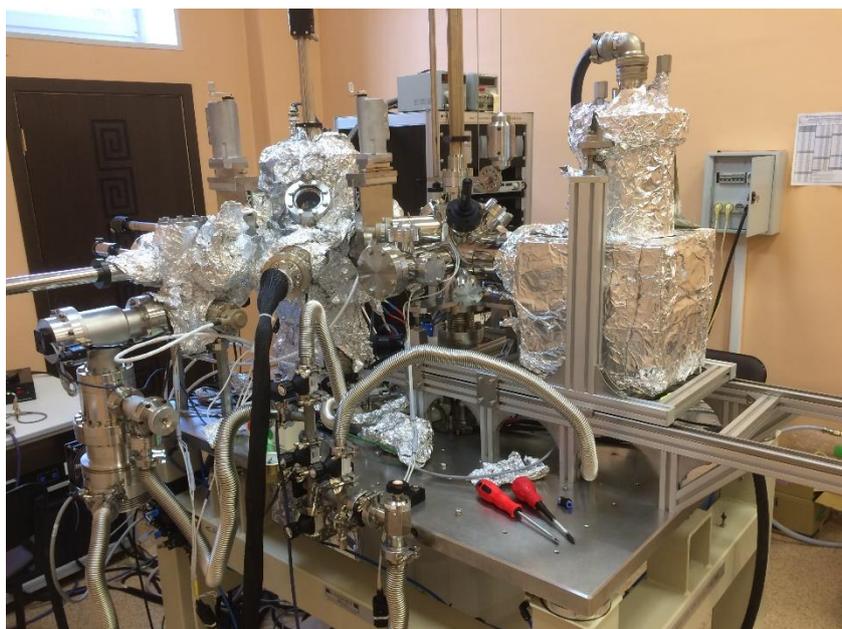
Institute of Automation and Control Process での滞在を終えて

物理学専攻 博士課程2年 中村 友謙 (長谷川研)

9月6日から11月22日までの二ヶ月半、ロシア沿海地方ウラジオストク市の Institute of Automation and Control Process (IACP) に滞在し、Saranin 教授の下、新奇二次元超伝導体の探索を目的として共同研究を行った。IACP では走査トンネル顕微鏡(STM)及び角度分解光電子分光(ARPES)を用いて、二元金属で構成される表面超構造の作成・電子構造の測定に挑戦した。

今回の滞在は初の一人暮らしということもあり、苦勞することも多々あった。ウラジオストクでは、(研究所の職員を除いて)英語がほとんど通じなかった。多少のロシア語は勉強して滞在に臨んだのだが、とあるレストランに入ったとき、メニューが筆記体のキリル文字で書かれていたため、全く読めないということがあった。不幸にも wifi の無いレストランだったために筆記体を調べることもすらできなかったが、なんと店員が日本語学習者であったため、事なきを得た。英語圏以外へ長期滞在する場合はその国の文字の筆記体まで押さえておくことをおすすめする。この滞在を通じて、研究・実験の手法だけでなく様々なことを学ぶことができた。また、自分の改善すべき点等を確認でき、非常に有意義な滞在だったと思う。

最後に、今回の海外長期滞在を支援して下さった ALPS 関係者の皆様、受け入れを快く承知して下さった Saranin 教授及び研究グループの皆様に深くお礼を申し上げます。



IACP, 走査トンネル顕微鏡